

## 平成22年度決算について

### 資金収支計算書（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）

資金収支計算書の内容は、当該会計年度中のすべての収入および支出の内容と資金の顛末を明らかにすることにある。

収入には借入金収入等の負債となる収入なども含まれ、また支出には経費のほか資産を形成する資本的支出および借入金返済支出等も含まれている。従って資金収支計算書には、当該期間中の資金取引がすべて網羅されている。

平成22年度の当年度収入合計の決算額は194億1,200万円で、これに前年度繰越支払資金の169億2,400万円を加えると、収入の部合計は363億3,600万円になる。

一方、当年度支出合計の決算額は194億9,200万円で、これを収入の部から差し引くと次年度繰越支払資金は168億4,400万円になる。これは予算において予測していた額に比して17億2,800万円の増加である。

### 消費収支計算書（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）

消費収支計算書は当該会計年度中の消費収入および消費支出の内容を明らかにし、収支の均衡状態が保たれているか否かを計算、表示している。

財政の運営状況を示す消費収支計算において、当年度消費収支差額は法人全体で19億2,200万円の消費収入超過となっている。これは、主に大学で13億7,000万円、國學院高校で2億5,000万円、久我山高校で6,800万円、久我山中学で1億2,300万円の消費収入超過であったことなどによる。

前項の結果として、前年度繰越消費収入超過額に当年度消費収入超過額を加減すると、翌年度に繰り越される消費収入超過額は22億4,200万円となる。

予算では当年度消費収支差額は4億7,200万円の消費収入超過額を見込んでいたが、結果的には手数料収入、寄付金収入、補助金収入、資産運用収入、雑収入等が予算に比して実績が上回り、一方、教育研究経費、管理経費等の消費支出が予算額を下回ったことにより、19億2,200万円の消費収入超過となった。

### 貸借対照表（平成23年3月31日現在）

平成23年3月31日現在における資産および負債・基本金・消費収支差額の財政状態を見ると、資産総額は25億100万円増加して1,047億400万円となり、負債総額は8億600万円減少して121億9,900万円となった。

前項の結果として、純資産（資産総額から負債総額を控除した額）は925億500万円となり、前年度末に比べて33億700万円の増加となった。

基本金は13億8,500万円増加して902億6,300万円となった。内訳は、①第1号基本金（教育研究充実向上のために取得した固定資産）は859億9,000万円、②第2号基本金（将来取得する固定資産の取得にあてる資産）は3億円、③第3号基本金（奨学基金として積み立てられている資産）は29億2,100万円、④第4号基本金（恒常的に保持すべき資金）は10億5,100万円となっている。

消費収支差額は、消費収支計算書の項で述べたが、累積で22億4,200万円の消費収入超過である。